

令和7年度 教育研究員部会別発表会案内

東京都教育委員会は、所属校（園）における教育活動を通して、各教科等の内容、指導方法等を研究し、様々な課題の解決と指導力の向上を図り、当該地区等における教育研究活動の中核となる教員としての資質・能力を養成するために、教育研究員を設置しています。

令和7年度は、120名の教育研究員が、共通の研究テーマ「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」に基づき、幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等の各教科等の部会において、研究を進めてきました。

この度、研究のまとめとして、教育研究員の所属校等において、以下のとおり研究成果の発表会を開催します。

参加は、部会別発表会の2週間前までにURL または二次元コードからお申し込みください。

URL <https://forms.office.com/r/iMNA3cxSQj>

二次元コード



校種等	部会名	校種等	部会名
幼稚園	幼稚園	中学校	社会
	国語		数学
	社会	中・高合同	特別活動
	算数		地理歴史
小学校	図画工作	高等学校	工業
	体育		視・聴・肢・病及び重複障害教育
	特別の教科 道徳	特別支援学校等	知的障害教育
小・中合同	総合的な学習の時間		

<問合せ先>

東京都教育庁指導部指導企画課

電話 03(5000)7051

令和7年度教育研究員部会別発表会 概要

部会	幼稚園	研究 主題	身近な環境に主体的に関わる幼児の育成 ～幼児が思いや考えをもって自分なりに環境に関わる姿に着目して～
日時	令和8年1月30日（金） 午後1時から午後4時30分まで		
会場	新宿区立早稲田幼稚園	概要	幼児が思いや考えをもって、自分なりに環境に関わる姿に着目し、身近な環境に主体的に関わる幼児の育成を目指し、以下の点を中心に研究を行った。 ①幼児が思いや考えをもって自分なりに環境に関わる姿を捉え、その過程を明らかにする。 ②「幼児が思いや考えをもって自分なりに環境に関わる姿の過程」を踏まえ、どのような教師の援助と環境の工夫が必要かを探る。
公開授業	年長 5歳児学級		
講師	国立教育政策研究所 教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官 横山 真貴子 氏		

部会	小学校 国語	研究 主題	伝えたいことを明確にして書くことができる児童の育成 ～題材の設定、情報の収集、内容の検討の指導の工夫を通して～
日時	令和8年2月12日（木） 午後1時30分から午後4時30分まで		
会場	江東区立深川小学校	概要	伝えたいことを明確にして書くことができる児童の育成を目指し、「B 書くこと(1)ア」（題材の設定、情報の収集、内容の検討）の指導事項に重点を置いて研究を行った。また、研究主題に迫るための視点として、以下の2点設定し、検証を行った。 ①児童が目的意識をもって題材を設定するための手立て ②児童が目的意識をもって情報を収集し、内容を検討するための手立て
公開授業	第4学年 理由や例を挙げて、考えを書こう		
講師	国立教育政策研究所 教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官 大塚 健太郎 氏		

部会	小学校 社会	研究 主題	社会的事象の見方・考え方を働かせ、主体的に問い合わせ探究する児童の育成 ～問題解決の見通しをもち、学習の自己調整を図りながら、協働して学びを深める学習を通して～
日時	令和8年1月20日（火） 午後1時35分から午後4時30分まで		
会場	世田谷区立代沢小学校	概要	小学校社会科の目標を踏まえ「社会的事象の見方・考え方を働かせ、主体的に問い合わせ探究する児童の育成」を目指した。そのために、児童が学習問題を見いだし、解決の見通しをもって他者と協働的に追究し、振り返り、新たな問い合わせを見いだす学習過程等の更なる充実を図る。特に、児童一人一人が、問題解決に向けて学習の自己調整を図りながら、協働して学びを深めるための指導の工夫に重点を置いて研究を進めた。
公開授業	第3学年 火事から地域の安全を守る 第4学年 ゆたかな自然を守り生かす小笠原村 第5学年 自然災害とともに生きる		
講師	国立教育政策研究所 教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官 小倉 勝登 氏		

令和7年度教育研究員部会別発表会 概要

部会	小学校 算数	研究 主題	
日時	令和8年2月24日（火） 午後1時20分から午後4時30分まで		学びに向かう力の育成 ～数学のよさに気付く授業～
会場	練馬区立豊玉第二小学校	概要	児童が自ら数学のよさに気付いていくように指導を工夫することで、算数に対する好意的な態度を育み、学びに向かう力を育成することを目指し、以下の2点を中心とした研究を行った。 ①数学のよさ（単元で学習させることを目指す数学のよさ、各時間の授業で活用される既習の数学のよさ、数学のよさに気付く児童の姿等）を明らかにする教材研究 ②数学のよさに気付かせるための指導（学習展開や発問、板書等）の工夫
公開 授業	第4学年 小数のかけ算とわり算		
講師	国立教育政策研究所 教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官 加固 希支男 氏		

部会	小学校 図画工作	研究 主題	
日時	令和8年1月22日（木） 午後2時から午後4時30分まで		「これがいい」「こうしたい」が生まれる図画工作 ～子供の視点に立った授業づくり～
会場	稻城市立長峰小学校	概要	本研究では、子供が造形的な見方・考え方を働きかせ、「これがいい」「こうしたい」という思いをもち、主体的に学び続けることのできる授業を目指した。そこで以下の3点を児童の「これがいい」「こうしたい」という思いを引き出すための工夫として、子供の視点に立った授業づくりについて研究した。 ①題材との出会い（題材設定、導入） ②環境づくり（場の設定、心理的安全性） ③学びの過程の価値付け（活動の見取り、振り返り）
公開 授業	第4学年 コロリンのぼうけん		
講師	国立教育政策研究所 教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官 小林 恒代 氏		

部会	小学校 体育	研究 主題	
日時	令和8年1月23日（金） 午後1時45分から午後4時30分まで		全ての子供たちが主体的に学び、仲間と共に成長する体育学習 ～学びを自らつくる学習過程と自己決定を支える環境の工夫～
会場	江東区立豊洲西小学校	概要	児童自らが、自己の学びをつくることができるようになる体育学習を目指す。そのために、児童が学び方を選択し、そのよさを十分に実感できる環境を確保することに加え、友達や仲間と関わり合いながら、自己の課題を解決していく学習を実現できるよう、以下3点を研究の視点として設定した。 【研究の視点】 1 学びを自らつくる学習過程 2 自己決定を支える環境 3 I C Tの利活用
公開 授業	第1学年 多様な動きをつくる運動遊び 第5学年 体の動きを高める運動		
講師	環太平洋大学 准教授 清田 美紀 氏		

令和7年度教育研究員部会別発表会 概要

部会	小学校 特別の教科 道徳	研究 主題	自己の生き方について考えを深める児童の育成 ～児童の問題意識を生かす工夫、多様な感じ方や考え方方に触れさせる工夫の研究～
日時	令和8年2月19日（木） 午後1時35分から午後4時30分まで		
会場	杉並区立荻窪小学校	概要	児童が自ら道徳性を養うには、「自分はどうありたいのか」、自分の生き方を考えるための工夫を充実させることが大切であると考え、以下の視点で研究を行った。 ①児童の問題意識を生かす工夫 ②多様な感じ方や考え方方に触れさせる工夫 これにより、児童が多様な感じ方や考え方をもとに自己を見つめ、これから課題や目標を見付けようとするだろうと考えた。
公開授業	第5学年 泣いた赤鬼		
講師	国立教育政策研究所 教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官 堀田 竜次 氏		

部会	小中合同 総合的な学習の時間	研究 主題	自分の考え方をもち、協働的に学び、探究し続ける児童・生徒の育成 ～「整理・分析」段階における深い思考を促す指導の工夫～
日時	令和8年2月17日（火） 午後1時30分から午後4時30分まで		
会場	昭島市立中神小学校	概要	自分の考え方をもち、協働的に学び、探究し続ける児童・生徒の育成を目指し、以下の点を中心に研究を行った。 ①児童・生徒が目的意識をもち、探究的な学習の充実を図るための、単元を通して探究していく本質的な問いについて ②「整理・分析」段階における深い思考を促す教員の問い合わせ及び児童・生徒の言葉掛けについて
公開授業	第4学年 盆踊り大会を盛り上げ隊		
講師	青梅市立第三小学校 校長 八木 慎一 氏		

部会	中学校 社会	研究 主題	社会的な見方・考え方を働きかせ、主体的に課題追究できる生徒の育成 ～全ての生徒が主体的に情報収集や考察し、課題解決に向けて取り組めるための個々の見取りの工夫～
日時	令和8年2月17日（火） 午後1時30分から午後4時30分まで		
会場	足立区立第四中学校	概要	社会的な見方・考え方を働きかせ、主体的に課題追究できる生徒の育成を目指した。「情報収集や考察の場面で、学習状況を適切に見取り、支援に繋げることで、個に応じた指導がより一層充実し、全ての生徒が社会的な見方・考え方を働きかせ、主体的に課題追究できるだろう。」と仮説を立て、以下の視点で研究を行った。 ①学習状況の可視化 ②教師の見取りを促進するワークシートの活用
公開授業	第1学年 (地理的分野) B 世界の様々な地域 (2) 世界の諸地域 ⑤南アメリカ州		
講師	府中市立府中第二中学校 校長 成清 敏治 氏		

令和7年度教育研究員部会別発表会 概要

部会	中学校 数学	研究 主題	生徒自ら最適な学び方を設定し、課題解決に取り組む「学びに向かう力」の育成 ～生徒が学び方を計画・調整する学習場面の工夫を通して～
日時	令和8年1月29日（木） 午後1時25分から午後4時30分まで		
会場	中央区立晴海西中学校	概要	本研究では、生徒の「学びに向かう力」の育成に向け、以下を手だてとして研究を行った。 ①生徒が学び方を計画・調整できるような学習場面の工夫 ②日常の事象や社会の事象と関連する導入の工夫 ③既習事項と関連付け、多面的・多角的に考えることができる教材の工夫
公開授業	第1学年 比例と反比例		これにより生徒は他の生徒と協働しながら、自ら最適な学び方を見いだし、課題解決を図る経験を重ねることを通して、学びに向かう力を育成することができると考えた。
講師	世田谷区立梅丘中学校 校長 石綿 健一郎 氏		

部会	中高合同 特別活動	研究 主題	一人一人のよさや可能性を認識し、学校生活で生かそうとする生徒の育成 ～活動後の振り返りの工夫を通して～
日時	令和8年2月17日（火） 午後1時30分から午後4時30分まで		
会場	練馬区立中村中学校	概要	生徒が身に付けたいと思う力と実際に身に付いていると思う力の比較において、自己理解や自己肯定感が十分に育成されていない現状が見られた。そこで、話し合い活動後の振り返りにおいて、「学級・ホームルーム活動振り返りブック」を活用し、自己評価だけでなく他者評価を共有することにより、自己のよさや可能性を認識し、学校生活で生かそうとする生徒が育成されると考え、検証を行った。
公開授業	第1学年 学級活動(1)		
講師	国立教育政策研究所 教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官 佐藤 学 氏		

部会	高等学校 地理歴史	研究 主題	社会に見られる課題に対し、デジタルの力を活用しながら学びのプロセスを自ら決定し、史資料に基づき探究するための単元デザインの工夫
日時	令和8年2月9日（月） 午後1時20分から午後4時30分まで		
会場	東京都立足立新田高等学校	概要	全ての生徒の資質・能力を育成する、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた授業改善に向けて、以下の研究を行った。 ①デジタルの力を活用して他者と共有することにより、自身の構想した意見を深化させることができるかの検証 ②学びのプロセスを生徒が設計できるようにすることで、主体的に課題を解決しようとする態度を身に付けることができるかの検証
公開授業	第1学年 日本の行方と第二次世界大戦		
講師	国立教育政策研究所 教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官 藤野 敦 氏		

令和7年度教育研究員部会別発表会 概要

部会	高等学校 工業	研究 主題	「個別最適な学び」と「協働的な学び」によって創造的に課題を解決する力を養うことのできる授業改善の実現
日時	令和8年2月18日（水） 午後1時50分から午後4時30分まで		
会場	東京都立科学技術高等学校	概要	工業科目における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化を図り、職業人としての見方・考え方を身に付け創造的に課題を解決する力の育成に向けて以下の研究を行った。 ①個別最適な学びと協働的な学びに関する実態を調査 ②一人1台端末の活用による生徒の探究的な活動を重視した授業実践 ③工業における見方・考え方を働かせ、創造的に解決する力が身に付いたか変容を調査
公開 授業	第1学年 プレ課題研究（SS科学技術研究）		
講師	東京都教育庁指導部 主任指導主事 山本 進一 氏		

部会	特別支援学校等 視・聴・肢・病及び重複障害教育	研究 主題	教材の選定理由を明確化した授業づくり ～学びをより深める学習を目指して～
日時	令和8年2月20日（金） 午後1時35分から午後4時30分まで		
会場	東京都立北特別支援学校	概要	学習指導案に教材の選定理由等を記載するなど、教材の選定理由を明確にすることで、児童・生徒の学びをより深めることができると考え、以下の点を中心に研究を行った。 ①学習指導案に追記する、使用教材の選定理由欄と使用教材について確認するチェックリストの項目等の検証 ②学習指導案に追記した選定理由欄とチェックリストを活用することによる効果の検証
公開 授業	高等部1～3年 物語から学ぼう		
講師	東京都教育庁指導部特別支援教育指導課 統括指導主事 平澤 庄吾 氏		

部会	特別支援学校等 知的障害教育	研究 主題	言語活動を通じて、主体的に他者と関わる力を育むための指導の工夫 ～困難さの背景要因を明らかにし、支援につなげるシートの活用～
日時	令和8年2月13日（金） 午後1時20分から午後4時30分まで		
会場	小平市立小平第五小学校	概要	特別支援学級に在籍する知的障害のある児童・生徒の言語活動における困難さの背景要因に注目し、次の点を中心に研究を行った。 ①特別支援学校学習指導要領自立活動編を基に、知的障害のある児童・生徒の困難に応じた支援方法を整理した資料を作成する。 ②上記資料を活用し、特別支援学級の授業場面における、知的障害のある児童・生徒の言語活動における困難さに応じた効果的な支援を検討し、その有用性を検証する。
公開 授業	特別支援学級 第4学年 生活単元学習 お仕事調査隊！		
講師	東京都教育庁指導部特別支援教育指導課 統括指導主事 山本 修司 氏		